

# 経営者のための やさしい企業年金教室

平成27年7月15日

## 14 時限目：「再び注目を集める“キャッシュ・バランス・プラン”」

キャッシュ・バランス・プラン（CB）が、再び注目を集めています。CBは、平成14年から導入が認められた制度で、確定給付企業年金（DB）に分類されます。大手電機メーカーなどが導入したことで一時注目を集めました。ここへきて再び注目されています。

これは、厚生年金基金制度が原則廃止され、廃止後に設立される後継制度としてCBを採用する事例が増えているためです。では、なぜDBではなく、CBなのでしょう。

それはCBが、DBと確定拠出年金（DC）の特徴を併せ持つハイブリッド型の制度だからです。DBは、一定の決められた方法で計算された退職金額を支給するため、企業が掛金を掛け、支払い時まで運用するもの。一方、DCは一定の決められた方法で計算された掛金額を従業員の年金口座に拠出し、それを従業員が運用する制度です。つまり、DBの運用リスクは企業が、DCは従業員が負います。

これに対しCBは、一定の決められた方法で計算された掛金額が従業員の仮想年金口座

に拠出されることになり、この点はDCに似ています。その後、同口座の残高に利息が付き、従業員はその元利合計を受け取りますが、利息の付与は企業の責任で行われるので、運用リスクはDBと同じように企業が負います。

ただし、仮想年金口座に付利する利率（再評価率）は、国債の利回りなど一定の指標に基づき変動するため、固定的な利率（予定利率）でその利率以上の運用ができないと積立不足に陥るDBとは異なり、積立不足は発生しにくくなります。

厚生年金基金の解散後に、基金事務局が後継制度を提案する場合がありますが、このときにDBを選択してしまうと厚生年金基金の二の舞となって、積立不足の増大に苦しめられることも考えられます。そのため少しでも積立不足が発生するリスクを抑えるCBを採用するケースが多くなってきているのです。

また、平成26年にCBの給付設計の弾力化が図られ、再評価率を決める際に、国債の利回りなどだけでなく、「年金資産（積立金）

# 経営者のための やさしい企業年金教室

の運用実績」も指標として追加されました。  
さらに、制度利回りについても、「単年度で0  
(ゼロ)以上」から「退職までの加入期間通  
算で0以上」とされるなど、より使いやすい  
制度になったことで、今後はCBを採用する

企業がさらに増えると思われます。

◇企業年金相談センター（NPO法人企業・  
団体支援日本FP協議会） 葉山 俊夫

## <各制度の比較>

項目	C B	D B	D C
掛金額	給付がまかなえるように企業が拠出	給付がまかなえるように企業が拠出	決められた計算方法により企業が拠出
個人別口座	仮想年金口座に掛金額等が記録される	なし	年金口座に掛金が入金される
給付額	仮想年金口座の残高を受け取る。指標に応じて変動	決められた方法で計算された確定金額	年金口座の残高を受け取る。運用実績により変動
運用責任	企業が負う	企業が負う	従業員が負う